

## 天気に恵まれた 2018 秋の研修旅行

### 「身近な石・大谷石の故郷を訪ねる旅」

研修部 小寺正孝



私・小寺は、この春、飯嶋・安田両先輩理事と共に「研修旅行担当」に指名された、研修部の新米理事です。5月の理事会で「大谷石の故郷を訪ねる旅」が了承された時は、「秋の研修旅行なのにもう？」が正直な感想でした。6月に募集予告をしたせいでしょうか、7月の募集では、バス2台の予定が、たった1日でバス3台満杯の申し込みを受け、嬉しい悲鳴を上げてしまいました。9月にキャンセル待ち募集をしましたが、辞退される方がほとんどおられず、中にはしびれを切らした方もおられました。しかし、間近になると、電話の向こうでせき込みながら辞退される方などが続出し、7席もの空席が出てしまいました。残念！

準備に半年をかけた10月30日の校外研修当日は、それはそれはすばらしい秋の青空で、皆さん出発前から笑顔がこぼれていました。8時15分に千葉駅前通りを出発、穴川ICから外環道・東北道を通って宇都宮ICまでほぼ3時間の高速道路の旅でした。ICすぐ近くのお店でお腹いっぱい「宇都宮餃子尽くし」を堪能してから、大谷寺に向かいました。

大谷寺の内部は古代の横穴式住居を利用しており、本堂がすっぽりと洞窟に覆われている洞窟寺院です。御本尊は壁面に彫刻した高さ4mの像に赤い朱を塗り、粘土で細かな化粧を施し、漆を塗り、

一番表には金箔が押されており、出来上がった当初は金色に輝いていた、弘法大師作と伝えられる千手観音様です。（最近の研究では、バーミヤン石仏との共通点が見られることから、アフガニスタンの僧侶が彫刻したものと考えられています。）

大谷寺のすぐ前の「大谷公園」には大谷石採掘場跡が残っていて、公園内には戦没者の慰霊と世界平和を願い、昭和23年から6年の歳月をかけて、全て手彫りで完成させた、高さ27mの「平和観音像」があり、その前で写真部の小駒さんに写真を取っていただきました。

次に訪ねた大谷資料館の地下は、大正8年から昭和61年まで約70年間、大谷石を掘り出してできた巨大な地下空間で、広さは20000㎡、深さは30m、壁や床に手掘り時代のツルハシのあとが残り、坑内の平均気温は8℃前後ということでした。

戦争中は地下の秘密基地（飛行機製造）、戦後は政府米の貯蔵庫、現在はコンサートや美術展などが開かれ、結婚式場としても利用されているそうです。

ここまで見てきてほぼ3時、また3時間かけての帰路の旅ですが、その間に皆様から、「楽しかった」「良かった」とお褒めの言葉をいただきました。多勢参加してくださり、拙い企画にも関わらず、無事に楽しく旅を終わることが出来たのは、皆様のご協力の賜物です。ありがとうございました。

晩酌、美味しかったです。